

事務局作成資料

<新しいコミュニティのあり方>

共通項

・新しいコミュニティのあり方を考える必要あり。その際には市民が気軽に参加でき、各コミュニティの民主的・公平な関係を構築する必要あり。

・最も身近な自治の単位として、町会組織を再編し、開かれたものとする

・区レベル・地域レベルでのコミュニティ活動のための場の確保、財政支援など様々な支援策を検討する必要がある。

背景と課題

・現在の町会は重要な役割を果たしているが、社会環境の変化に柔軟に対応していけるよう、町内会の再編、テーマ別コミュニティの構築を含め、新しいコミュニティのあり方を模索していく必要がある。

論点

- ・現在の町会、自治会をどのように考えるか。
- ・町会等の組織の将来の方向性は？
- ・新たなコミュニティのあり方とそこでの市民の役割の検討をどのように考えるか。
- ・適切なコミュニティ単位をどのように考えるか。

メモ

第2回作成委員会意見

<案1>

少子高齢化、福祉、防災、防犯などの身近な課題を解決するためには、市民が主体的に地域づくりへ参加する新しいコミュニティが必要である。この新しいコミュニティは、参加しやすい形態で、相互理解を得て信頼をつくりながら市民間の協働で民主的に運営されるべきである。また、新しいコミュニティは、地縁的なコミュニティとテーマ別のコミュニティが有機的にネットワークされたものである。

<案2>

地方分権化、少子高齢化の中で地縁コミュニティとして重要な位置づけにある町会の意義、役割を抜本的に見直す。なお、見直しには町連も加え、住民が（特に若手住民が）参加しやすい町会とする。

テーマ別の地域コミュニティの役割

地域コミュニティとテーマ別コミュニティの民主的・公平な連携関係

<案3>

高齢者、障害者等全住民参加による地域まちづくり

住民組織化への課題として、町内会および自治会組織の改革

新しいコミュニティとしての住民組織の形成

地域組織の改革として、テーマ別住民組織、同意者団体組織の創設

町内会組織の見直し、小さな単位での自治

自治会と町内会の整理と再編成

<案4>

・中間報告らしく、「自治基本条例では新しいコミュニティのあり方を定めます。」といった2行程度の文章

提案1：地方分権、少子高齢化の時代においては、地域福祉、安全（防災、防犯）などの課題があり、そのための相互理解、協働の場としてのコミュニティにおける自治の単位が重要です。

提案2：自治の単位としてのコミュニティは、地縁的な単位として考えると、中学校区、小学校区、町内会、自治会といういくつかの段階があり、さらにそれをテーマ別に考えると介護保険、学校教育等のテーマ別コミュニティがあります。そして、これらのテーマ別コミュニティと段階的な地縁的なコミュニティとの関係を考えることが必要です。

論点1：町内会の自治力をどのように高めるか。

論点2：若い人々、様々な世代が参加しやすい町内会、自治会にしていくためにはどうしたらよいか。

<案5>

規模と種類

規模：小学校単位、中学校単位

種類：地域別コミュニティとテーマ別コミュニティ

民主的、開放的、活発な活動が行われるコミュニティ

コミュニティ形成のための条件づくり

ハード面：こども文化センター等の公共施設の運営のあり方

ソフト面：自主的・自治的なコミュニティ協約づくり（民主的、開放的、活発な活動が行われるためには、条例で規制するのではなく、コミュニティの協約をつくる必要がある）

コミュニティの目的

福祉、防災、防犯など

・ポイントとしては、「民主的、開放的、活発な活動が行われるコミュニティ」が必要であり、その条件づくりを自治基本条例でバックアップできないかということであるように思われる。